

# Jupiter

ジュピター

2023

冬号

VOL.49

岡山県精神科医療センター理念 | 人としての尊厳を第一に安心・安全の医療をめざします。



当センターのシンボルマークは  
安心・安全の医療を表しています

ノアの方舟で主人公ノアがハトを放ち、オリーブの葉をくわえて船に戻ってきたところを表しています。安住の地を求めて、安心・安全の医療を追求し進んでいくことをシンボライズしています。

## CONTENTS

2 新年のごあいさつ

3 病院優良職員表彰式

4 第9回 成人発達障害  
支援学会 Report

5 新任者研修 in 旧閑谷学校

5 第30回日本精神科救急学会学術総会

6 OKADA 便り  
ASST.Hiroki Nishimura

7 鹿田丸訪問看護  
ステーション

8 EVENT REPORT

・東古松サント診療所 デイケア  
・岡山県精神科医療センター デイケア

## 病院優良職員 表彰式



令和4年10月27日(木)、岡山県病院協会主催「病院優良職員表彰式」がホテルグランヴィア岡山にて行われました。県内の医療従事者のうち、今年度は187名が表彰され、当センターからは3名が受賞しました。3名ともに勤続20年以上で、当センターの精神科看護に大きく寄与しています。この度は本当におめでとうございます。

### 看護師 越智貴史

この度は、優良職員の一員ということで表彰していただき、ありがとうございます。この私が表彰というのは厚かましい限りなのですが、私生活なら優良かもしれません。年を重ねながら進化しています。岡山県精神科医療センターで長年働き続けられているのは、周りのスタッフに支えられてきたおかげです。人生、残りの方が少なくなりましたが、まだまだ公私共に前向きに進んでいきたいと思えます。

### 看護師 楠木文子

就職して20年、振り返るとあっという間でした。今の自分があるのは、この20年という年月の中で出会った患者さんと、一緒に苦楽を共にしたスタッフのおかげです。県立病院の頃を知っているスタッフも少なくなり、患者さんと昔を語り合う時間は、私にとっては貴重なひとときです。今回はこのような機会を与えて下さり励みとなりました。ありがとうございました。

### 看護師 藪本洋子

病院優良職員表彰、ありがとうございます。入職後、病院建て替え工事や精神科の機能分化、感染症対策など目まぐるしい変化の波にもまれていきます。今後もその波にのまれず、なんとか乗り越えたい日々頑張りたいと思えます。

# 新年のごあいさつ



院長  
来住 由樹

今年の一文字  
動

動。ひとりひとりが自分で考えて動く。まだ語られない気持ちや想像し、目の前には表れていないことを見る。感じたことは言葉にする。自信がもてないけど大切に思えることは言葉にする。言葉をぶつけ合い、そして動く。アメーバのようにひとりひとりが判断して動く。苦しんでいる人、困っている人が、ひとりでも助かるように。あと半歩前に。



副理事長  
山田 了士

今年の一文字  
協

「協」という字は大変地味で、単独で使われるのもタクシーの行灯ぐらいでしょうか。人の名前にも使われず、協会、協議、協賛とか、建前くささも漂います。けれどもよく見ると、ちよつとずつ違った形の「力」が3つも合わさっていて、それが絶妙に組まれた味わい深さがあります。一つ一つの「力」が小さいので、さほど熱狂的な強さは感じられません。しかし、きな臭くなつたこの世界、熱狂は分断や全体主義につながりかねません。協力、協調、協演のココロは、違った意見や技能を持つ人たちが力を合わせることから、今こそ意味のある文字かと思うのです。



理事長  
中島 豊爾

今年の一文字  
流

「流」の文字を見て、人々は何を思うだろうか。まずは清流だろう。清らかな水、そのまま飲みたくなく冷たく透き通った水。しかし、濁流もある。上流で降った雨が思いもよらぬ流れとなる。また、海にも流れがある。温暖化とともに黒潮は北海道まで洗っている。色も違う。海のそばで暮らしていれば、皆知っている。流れ流れてヤシの実一つ。どこの岸边にたどり着こうと、誰が知ろう。「着いたよお」とヤシの実はひとり想う。

# 新任者研修 in 旧閑谷学校

令和5年度、新任者研修の一環として、旧閑谷学校で体験型研修を行いました。研修の目的は「新任者の社会人基礎力を促進させること」ですが、講堂学習や一緒にカレー作りなど、「他職種チームで一つのことを成し遂げる達成感を得られた」「これを機会に話せる人が増えてよかった」などの感想がありました。そのうち3名の職員の感想をご紹介します。



◀国宝の講堂で「論語」の学習体験をしました



▶多職種チームでカレー作り

**東入院棟 看護師・上田愛花**  
私は人見知りなので、今回の研修は正直とても緊張していましたが、同じグループの方も、そうでない方も気さくに話しかけてくださり、研修前の緊張や不安も杞憂で終わりました。カレー作りは役割分担して行ったのですが、びっくりするほどスムーズに作り終えることができ、日々発揮されているチーム医療の力を感じました！私は東入院棟に所属しており、他の入院棟の方と関わりがありません。今回の研修で他の入院棟の方とお話しできたことが何より嬉しかったです。より一層頑張る糧となりました。ありがとうございました！



▶コロナ感染防止対策のため、ここでも「黙食」を遵守！

**医師・奥田康夫**  
これまで自分が担当の入院棟以外で他職種の同期スタッフとやり取りをする機会がなかったので、良い機会になりました。前半は講師の先生による論語の復唱、後半はグループに分かれカレー作りをしました。私は古典に疎いので論語の解釈は難しかったですが、薪と飯盒でカレーを作って皆で食べるという体験はどこか懐かしさもあり、楽しい体験となりました。また機会があれば同期で集まりたいと思った一日でした。

**作業療法士・佐伯春佳**  
コメディカルが私一人で心細かったですが、同じ班をはじめとした同期の方々が様々な場面で声をかけてくださり嬉しかったです。入院棟活動等で各階を回っている私にとって、同期の存在はとても心強いです。また、視野を広く持つことの重要さも感じました。班でのカレー作りでは、最初に役割分担をしましたが、最終的にはそれらを超えて協力し、順調に調理を進めることができました。自分の役割はもちろん手伝えそうな仕事にも進んで取り組み、協働することの大切さも学んだ一日でした。

西3入院棟は、強度行動障害受け入れに於いて、県内の実態や当センターの状況、取り組みについて発表しました。学会に参加し、他の医療機関の発表を聞き、自殺念慮のある方の対応がテーマのセミナーでは、個人対個人の介入ではなく、出来る限り人を巻き込むことで、複数の人に見守られ

西3入院棟は、強度行動障害受け入れに於いて、県内の実態や当センターの状況、取り組みについて発表しました。学会に参加し、他の医療機関の発表を聞き、自殺念慮のある方の対応がテーマのセミナーでは、個人対個人の介入ではなく、出来る限り人を巻き込むことで、複数の人に見守られ

相談支援センター鹿田・川上俊輔  
相談支援事業所からは「公的精神科救急病院における相談支援事業所設立の実践とその退院支援効果」という演題でポスター発表を行いました。当センターは相談支援事業所を有している唯一の公的精神科病院です。平成27年の開設から現在までの経緯、院内外での取り組みとその効果、また今後の展望などをお伝えしました。当センター内の更なる周知を図りながら、精神科救急病院内における相談支援事業所の意義を発信していきたいと思っています。

令和4年9月30日・10月1日、埼玉会館にて「第30回日本精神科救急学会学術総会」が開催し当センターからも多くの職員が参加しました。その中から現地地帯でポスター発表を行った職員に感想を書いてもらいました。

## 第30回 日本精神科 救急学会 学術総会



令和4年9月30日・10月1日、埼玉会館にて「第30回日本精神科救急学会学術総会」が開催し当センターからも多くの職員が参加しました。その中から現地地帯でポスター発表を行った職員に感想を書いてもらいました。

# 「第9回」 成人発達障害 支援学会 Report



座長の山田副理事長



大会長・来住院長の挨拶



パネル展示の様子

**去**る令和4年12月3日・4日、岡山国際交流センターにおいて、「第9回成人発達障害支援学会岡山大会」が開催されました。この大会では、7つの講演や講座、3つのシンポジウムのほか、30演題のポスターセッション、ランチョンセミナーが実施され、万全の感染対策の元、会場には全国各地から多くの参加者が集い、発達障害支援に関する充実した会となりました。

この学会には、発達障害を理

解し、支援するための市民講座が組み込まれており、就労支援に取り組む「Kaiein」(東京)の代表取締役・鈴木慶太氏による当事者の選択肢が広がる社会づくりに向けた講演がありました。

その後、大会長である当センターの来住院長と、ベネッセビジネスメイトの櫻田満志氏のトークセッションが繰り広げられ、会場に集まった約2000人の聴衆はメモを取りながら話に聞き入っていました。

また、今回の岡山大会の地元プログラムとして、県内外の発達障害支援機関22カ所による各機関の取り組みや特徴のパネル展示、および推薦図書展示コーナーが設置されました。学会参加者からは、「様々な機関の情報や役に立つ書籍情報を一度に分かりやすく入手でき、大変画期的」との声が聞かれ、講演・展示ともに発達障害支援体制の充実に資する大会となりました。

(文) 医師支援班・太田理香

# 鹿田丸訪問看護ステーション

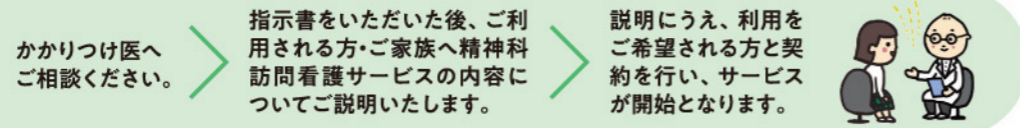
自分らしく生きていけること  
安心して過ごせること  
「できること」「したいこと」を叶えられるように  
私たちが365日サポートします



## ●鹿田丸訪問看護ステーションとは

かかりつけ医（精神科もしくは心療内科）の指示のもと、専門の看護スタッフが定期的にご自宅へお伺いします。病気（症状・お薬）との付き合い方や生活（学校・仕事・家事など）の困りごとについて、共に考えご相談に応じます。地域での日常生活が安心して送れるように、利用者さまやご家族のご要望に沿った看護ケアを提供します。

## 利用開始の流れ



## 訪問看護の内容

- 病気の症状やお薬についての相談
- 身体健康相談
- 日常生活上の相談・援助
- 家族相談
- 医療機関や地域との連携
- 社会参加や福祉サービスの利用相談
- 仕事や学校の相談
- 対人関係の困りごと相談

## 《営業日と営業時間》

時間	日	月	火	水	木	金	土
8:30~17:15	○	○	○	○	○	○	○

サービス提供エリア  
岡山県内

仕事や学校など生活スタイルに合わせた訪問看護をご提供します。訪問看護利用日やお伺いする時間帯については、ご相談に応じます。

●岡山県精神科医療センターHPより、リーフレットがダウンロードできます。ぜひご利用ください●

鹿田丸訪問看護ステーション 〒700-0915 岡山市北区鹿田本町3-16 (岡山県精神科医療センター内) TEL.086-225-3821(代)

# ASST.Hiroki Nishimura OKADAI便り



2008年に当センターに入職され、現在は岡山大学教育推進機構で助教としてお勤めの臨床心理士の西村大樹氏に近況を伺いました。「医療」とは異なる「教育」というフィールドで活躍されていますが、現在のお仕事の内容や、対象が患者さんから学生になったことで業務内容がどのように変化したのかについてお聞きしました。

「当センターで過ごした10年間はいかがでしたか？」

私は、2008年4月から2018年6月までお世話になりました。最初に配属されたケアで、精神科のイロハを教えたのが現タウンサークルの八杉さんでした。その八杉さんの次にこのコーナーで紹介していただき、とても光栄に思っています。少し恐縮しています。10年間を振り返ってみると本当にあってという間で、「楽しかった」という一言につきま。医療観察法入院棟の担当になった当初、当時医長だった来住先生が「楽しく働こう！」と声をかけてくださったって、まさにその通りだったな。10年間が「楽しかった」だけだとあんまりなので、もう少し話そうと思いますが、他ではできないような幅広い経験をさせてもらいました。もちろん大変だったこともありましたが、自分の配属以外でも興味のあることは自由にやらせてもらいましたし、今の私の臨床の土台を作ってもらえた10年間だったと思っています。それに、退職した後も様々な場面で声をかけてもらえて、本当にありがたく思っています。心理班のメンバーとは共同研究なども行っていて、今後も

この繋がりを大切に、岡山で活動を続けたいと思っています。

「現在お勤めの岡山大学ではどのようなことをされていますか？また、対象が「患者さん」から「学生」になったことで業務内容がどのように変化しましたか？」

現在は、学生相談室という場所、毎日学生からの相談を受けています。対象が「学生」になったことでの大きな違いは、メンタルヘルスに関する相談だけでなく、修学に関すること、進路の悩み、自分の性格や人間関係、経済的な問題、ハラメント等、さまざまな相談を受けるようになったことだと思います。転職当初は戸惑うこ



入職当時、精神科のイロハを教えてくださいましたタウンサークル代表取締役八杉氏と一緒に

ともありましたが、続けて行くうちに心理士としてやっていくことは同じだなと感じられるようになってきました。

最近では、メンタルヘルスの予防について関心があって、若い人たちが自分なりの対処法や問題解決方法を身に付けて、先行き不透明な社会の中で生きていくためのお手伝いが出来たらと考えています。

「岡山大学のInstagramで、学生相談室主催の「男子学生のための対人関係基礎講座（恋愛編）」を開催したという興味深い投稿を見ましたが、具体的な内容や学生からの反響をお聞かせください。」

これは学生相談室が開催し

ているセミナーの一つで、私の前任者から引き継いだものです。別に恋愛のテクニックや必勝法を教えるわけではなく（そんなことはできません）、コミュニケーションに焦点を当てて、学生たちと一緒にワイワイと話し合っています。Instagramや新聞記事に取り上げてもらったことで、某ワイドショーやラジオ局から取材依頼があったのですが、恥ずかしいから断りました（笑）。でも、こんな風に若い人々とワイワイやるのは楽しいですし、試行錯誤しながら頑張っている姿を見るのはとても元気をもらえます。それは、今の仕事の醍醐味だなと感じています。



セミナーで学生と一緒に作った花壇

# EVENT REPORT



東古松サント診療所  
**Withコロナの楽しみ方**  
デイケア

日々、Withコロナで何ができるかを考えながら過ごしています。

10月は、好きな図案を印刷したオリジナル長袖Tシャツを作りました。「肌寒くなったら助かる」と日常着用でご利用者さんも多いです。また「藍、あかね、玉ねぎ」の3色の染物イベントや、掘った芋でふかし芋とスイートポテトを作りました。

11月は、災害時の体験として岡山市北消防署の協力のもと初めて地震体験車に来てもらいました。「揺れたらこんなにも動けないのか」と痛感し、今後の備えになりました。また、サンマを焼いての昼食づくりも再開できました。



サンマで昼食



藍・茜・玉ねぎで染めました



地震体験車

2年目となるフリーマーケットでは、職員が寄付した日用品や利用者の作品を、多くの方が喜んで購入してくださいました。来場者からも「定期的に行っているんですか。また来たいです」「講演会があればまた来ます」など感想をいただきました。「今年こそはクリスマス会でケーキを食べたい」と皆さんからの要望が再拡大で今年もケーキは断念。しかし、練習したハンデルの演奏会や外部講師によるギター演奏などを楽しむことができました。

2023年も楽しみをたくさん見つける日々を過ごしていきたいと思えます。



岡山県精神科医療センター  
**デイケア内の部活動主催イベントが増えました!**  
デイケア

10月の文化祭ウィークでは川柳大会が行われ、約90句の作品が集まり、良作揃いでした。また、デイケア内の部活動主催の「卓球ストラックアウト大会」「麻雀同好会デイケア杯」「ネイルワークショップ(美術部)」などが開催されました。

11月は「焼き芋レク」と「ドッジボール大会」の二本立てで食欲の秋とスポーツの秋を満喫しました。焼き芋は火加減が非常に難しく、真っ黒になつてしまうものもありましたが、それも可愛嬌。ドッジボール大会ではソフトバレーボールを使い、思い通りの球速にならないの

が面白いところでした。

12月はクリスマス会。○×クイズでは「デイケアスタッフ一人につき5問用意し、計35問あったのにも関わらず、3問で勝負がついてしまったというオチがありました。クリスマスWordビンゴでは、クリスマスや冬にちなんだ単語をもとにゲームを作りました。なかなか自分が書いた単語が選ばれずドキドキでしたが、それもまた楽しみの一つとなっています。

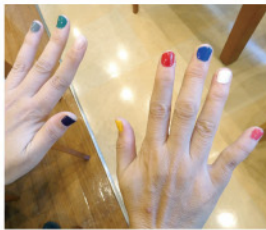
昨年の最終日には利用者スタッフが力を合わせて大掃除し、ピカピカのフロアで新年を迎えることができました。



センスが光る川柳が多数!



どの景品が当たるかわくわくします



カラフルなネイルで気分も上がります

## 編集後記

1カ月遅れになりましたが…皆様、新年明けましておめでとうございませう。2023年はうさぎ年ですね。私事ではありますが、今年「年女」です。今年は「うさぎの上り坂」になるよう、「脱兎の勢い」でサクサクと業務を遂行したいと思えます。

本年も広報誌「Jupiter」をよろしく願います。

(事務部・志茂香代子)

※うさぎの上り坂…持ち前の力を振るうことができ、物事が滞りなく早く進むことだと思え。迅速なま。

※脱兎の勢い…逃げる兎のように、きわめて迅速なま。



昨年秋の味覚弁当。秋晴れの下、病院の中庭でいただきました。

お正月仕様の昼食。ありがたい和菓子付きです。



# Jupiter

2023年  
冬号  
VOL.49

2023年1月31日発行

発行人 中島 豊爾  
編集人 来住 由樹  
発行所 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター  
岡山市北区鹿田本町3-16  
TEL.086-225-3821代  
ホームページ <https://www.popmc.jp>  
制作協力 ㈱あどりえ、ぼう  
印刷所 友野印刷㈱